

新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 Tel. 0569-26-4888 <http://www.nankichi.gr.jp>



その旅路
をご紹介します。
まずは最初
に取り上げ
ているのが、
信州旅行で
す。昭和八
年十二月
二十四日、
東京外国語
学校の学生
だった南吉
は、北原白
秋門下の兄
弟子・異聖

歌の家で、彫刻家の武井直也に会いました。その縁で三日後の二十七日には、信州上諏訪の武井を訪ね、歓待を受けています。後日、友人の歌見誠一に信州の美しさを綴った手紙を送ったり、諏訪湖を思い出して「鴨の道」という詩を創るなど、信州で見た景色は、南吉にとって心に響くものがあつたようです。

それから昭和十三年四月、安城高等女学校に就職した南吉は、翌月十日、十六日にさつそく関東旅行の引率をしています。この旅で南吉は江ノ島・鎌倉・東京・日光・善光寺を訪れ、同僚の大村重由、鈴木進とともに、旅の画帖「三人道中」を描きました。翌年五月二十五日、二十八日には関西旅行の引率もしていて、滋賀・京都・奈良を訪れています。中でも法隆寺が気に入ったようで、日記には「よい」「関西旅行で

の獲物」と書いています。さらに関西旅行の二か月後には、生徒と一緒に富士山にも登りました。病弱な南吉にとって大変な旅ではありましたが、翌年ウインパールの『アルプス登攀記』を読んだ際には、楽しい思い出だったと回想しています。ほかに、昭和十四年には学事視察という名目で、同僚の大村、戸田紋平とともに、熱海・大島・東京へ行きました。教師だけの気楽な旅だったようで、三人で描いた旅の画帖「筆勢非凡」からもその様子が伝わってきます。

本展はコロナ後への希望として企画しました。ぜひ会場を巡って、旅行気分を味わってみてください。

大正・昭和に生きた南吉は、生涯に各地の名勝旧跡を訪れました。短い人生であつたうえ、経済的な問題もあり、その数は決して多くありません。しかし、日記な

ど直筆の記録が残っている旅もあり、南吉が知らない土地をどう見ていたのか窺うことができます。今回の展示では、南吉が訪れた各地の写真や、当時の地図、画帖や作品などを通して、

南吉記念館では令和四年一月十日(祝・月)まで、企画展「南吉の旅」を開催しています。

展はで巡る、南吉の旅





新美南吉生誕百十年に向けて

再来年の令和五年に南吉は生誕百十年を迎えます。記念の年はまだ先ですが、南吉の故郷である半田市では、生誕百十年に向けていろいろな活動が始まっています。

平 成二十五年の新美南吉生誕百年から早八年。当時は「初

めての南吉 再び出逢う南吉」をキャッチコピーに、様々なイベントや展示が開かれ、記念館のリニューアル工事なども行われました。まだその盛り上がりをはっきり覚えている方もいるのではないのでしょうか。

再来年にはもう生誕百十年がやってきます。その機運を高めるような新しい取り組みが、少しずつ動き出しています。

その一つが九月二十三日(木)～十月九日(土)にかけて、名鉄知多半田駅直結の商業施設クラシティで開催された「みんなの南吉展」です。つくし学園など市内の児童発達支援施設の子どもたちが、南吉童話をイメージして作った作品がエントランスいっぱい飾られました。赤いハンドス

ランプで再現した彼岸花の屏風や、色とりどりの手袋が圧巻でした(写真①)。実行委員会の斎藤哲昌副委員長(株式会社エヌ・エフ・ユー)は「生誕百十年に向けて、まだまだ続けていきたい」と話しています。

昨年から始めた記念館敷地内にある「童話の森」の整備も進んでいます。綺麗になった空間を生かし、十一月十三日(土)にはNPOごんのふるさとネットワーク主催の朗読会が開かれました。朗読と三味線のユニット「二十六夜の朗読会」が南吉の物語を披露し(写真②)、参加した方々は木漏れ日の中でゆったりと耳を傾けていました。さらに翌週の二十日(土)にも、同じ場所でストップモーションアニメーション「ごん」の野外上映会があり、定員がいっぱいになる盛況ぶりでした(写真③)。



また十一月二十八日(日)には、南吉の母校・岩滑小学校の北壁面約百五十メートルの半分を、同校六年生の児童や地域の方々が綺麗に塗装し直しました(写真④)。これは生誕百十年に向けた企画「みんなの南吉さんストリートプロジェクト」の第一弾として、半田市観光協会の呼びかけで実施したもので、今後、その壁面に何を描くか皆で考えていきます。

にわかに活気づき始めた生誕百十年への動きに乞うご期待ください。

記念館からのお知らせ

すみこ 榊原澄香ペーパーアート展

南吉童話を題材にペーパーアート作品を制作されている、榊原澄香さんの作品展です。

会期 2022年1月15日(土)～4月10日(日)
観覧料 220円(高校生以上)



ペーパーアート教室

榊原澄香さんを講師に、南吉の童話「巨男のおおとこ」の話」を半立体のペーパーアートにします。

日時 2022年2月27日(日)
13時30分～15時30分
場所 南吉記念館工作室
対象 小学4年生以上(大人のみの参加も可)
定員 12名(先着順)
参加費 500円
申込み 1月15日(土)から電話でお申込みください。(☎0569-26-4888)

「手袋を買いに」の日

12月26日に南吉が「手袋を買いに」を書いたことを記念して、中学生以下の方は12月18日(土)～28日(火)に記念館を訪れると、イイコトがあります。お楽しみに！



詳細はコチラ



▲B5サイズ(額縁付き)

『#南吉の言葉』更新中！

記念館公式ツイッターでは、南吉の日記や作品に出てくる言葉を紹介する「#南吉の言葉」を始めました。ハッシュタグを検索して、南吉の人生観や芸術論に触れてみてください。



日誌抄：

八月(葉月)
▼7日 夏休み「ごんぎつね」教室。11人参加▼14日 パラリンピック聖火採火式。於記念館屋外休憩所▼22日 「童話創作講座」第2回。11人参加▼31日 中日新聞で特別展と、南吉が通った旧中野医院が紹介される
九月(長月)
▼5日 特設コーナー「中文分級閲読文庫」に選ばれた南吉童話集」始まる。於記念館図書室(1月10日)▼10日 第33回新美南吉童話賞作品募集締切。応募総数1800点▼11日、16日

朝日新聞と中日新聞で「中文分級閲読文庫」に南吉童話集が選ばれたことが紹介される▼23日 「みんなの南吉展」始まる。於クラシテイ(10月9日)▼29日 成岩小学校ヘリモートで出前授業。100人参加
十月(神無月)
▼4日 「ごんの誕生日」。22人参加▼同日 半田小学校で出前授業。70人参加▼8日 岩滑小学校で出前授業。67人参加▼同日 朝日新聞の「天声人語」で特別展が紹介される▼12日 さくら小学校で出前授業。34人参加▼14日 乙川東小学校で出前授業。107人参加▼15日 有脇小学校で出前授業。21人参加▼17日 第33回新美南吉童話賞一次審査会。於記念館会議室▼同日 第177回読書会。14人参加▼24日 特別展「コロナ禍に南吉を読む―感染症と新美南吉―」終了。会期中観覧者数11849人▼26日 板山小学校で出前授業。56人参加▼27日 花園小学校で出前授業。127人参加▼30日 企画展「南吉の旅」始まる(1月10日)

令和 3 年度半田市新美南吉読書感想画コンクール受賞作品

半田市教育委員会が開催している半田市新美南吉読書感想画コンクール（事務局 半田市立図書館）には、今年も多くの応募がありました。このコンクールは市内の小中学生が南吉作品を読んだ感想を絵に描くというもので、審査に小学校の教諭をはじめ、新美南吉記念館長も加わっています。

今年は 1,528 点の応募作の中から 36 点が選ばれました。その中から、半田市長賞、半田市教育委員会賞、新美南吉記念館賞、半田市立図書館賞、優秀賞（5 点）を受賞した 9 点の作品をご紹介します。

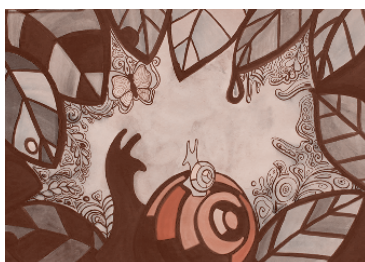
〈新美南吉記念館では 1 月 5 日（水）～ 2 月 6 日（日）まで優良賞を含む受賞作品 36 点を展示します〉



●半田市長賞

「かにのしょうばい」

いしかわ ゆう
石川 由宇（有脇小学校 3 年）



●半田市教育委員会賞

「好奇心の模様」

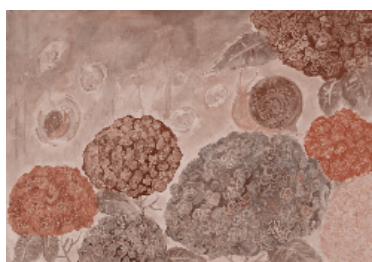
ほそい さやか
細井 清加（乙川中学校 3 年）



●新美南吉記念館賞

「色とりどりのランプを木いっぱい」

さかさばら あんず
榊原 杏（亀崎小学校 6 年）



●半田市立図書館賞

「悲しみと共に」

まつだ さや
松田 紗弥（半田中学校 2 年）



●優秀賞

「おたがいをおもうかえる」

さかさばら つばき
榊原 椿（雁宿小学校 1 年）



●優秀賞

「『あかいろうそく』を読んで」

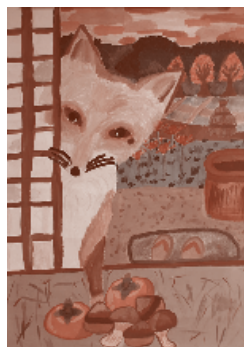
おがさわら あんと
小笠原 碧斗（さくら小学校 2 年）



●優秀賞

「美しいもんしろちょう」

やまだ くるみ
山田 来夢（岩滑小学校 4 年）



●優秀賞

「おわびの印」

おおた はるの
太田 遥乃（宮池小学校 5 年）



●優秀賞

「不揃いな悲しみ」

どうみ いりあ
道見 瑠彩（乙川中学校 1 年）